

# 住民ニーズの整理

## 1. アンケート調査概要

町内で運行しているバスのさらなる利用向上と効率的な運行を目的とした見直しに向けて、町民のバスの利用状況（利用目的、時間帯など）と運行内容の評価、ならびに今後のバスの在り方（運行方法の統一、効率化など）に対する考えを把握するためのアンケート調査を実施しました。

町民からの回収率は41.4%あり、町民の公共交通に対する関心が非常に高いことが伺えます。

### 調査実施概要

対象者	満15歳以上の町民	バス利用者
抽出方法	住民基本台帳から 無作為抽出	バス利用者全員
配布方法	郵送	車内据付、下車時配布
回収方法	郵送	郵送
実施期間	平成24年9月15日（土） ～9月30日（日）	平成24年9月18日（月） ～9月30日（日）
配布数	2,461通 （死亡・不在返却を除く）	若干
回収数	1,018通 （無記入欄の多い無効票を除く）	
回収率	41.4%	

### 地域別の回収率

	配布数	回収数	回収率
南条地域	1,130	458	40.5%
今庄地域	934	396	42.4%
河野地域	397	135	34.0%
不明	-	29	-
合計	2,461	1,018	41.4%

### 年齢別の回収率

	配布数	回収数	回収率
50歳未満	910	268	29.5%
50～64歳	585	270	46.2%
65～74歳	386	234	60.6%
75歳以上	580	245	42.2%
不明	-	1	-
合計	2,461	1,018	41.4%

## 2. 調査結果の概要

### (1) バスの利用実態と評価 (問1～問3)

“バスの利用頻度”は、各地域の住民ともに利用者は少なく、「月1～2回程度」および「週1～2回程度」の利用が多く、“利用目的”は「通院」および「買物」が大半を占めています。

“バスの評価”は、評価の悪い項目は、南条福祉バスでは「バス停」、今庄住民利用バスでは「運行日、運行間隔」、社協福祉バスと福鉄バスでは「運行間隔」となっています。また、ほとんどのバスで「運転手の対応」および「運賃」が良い評価となっています。

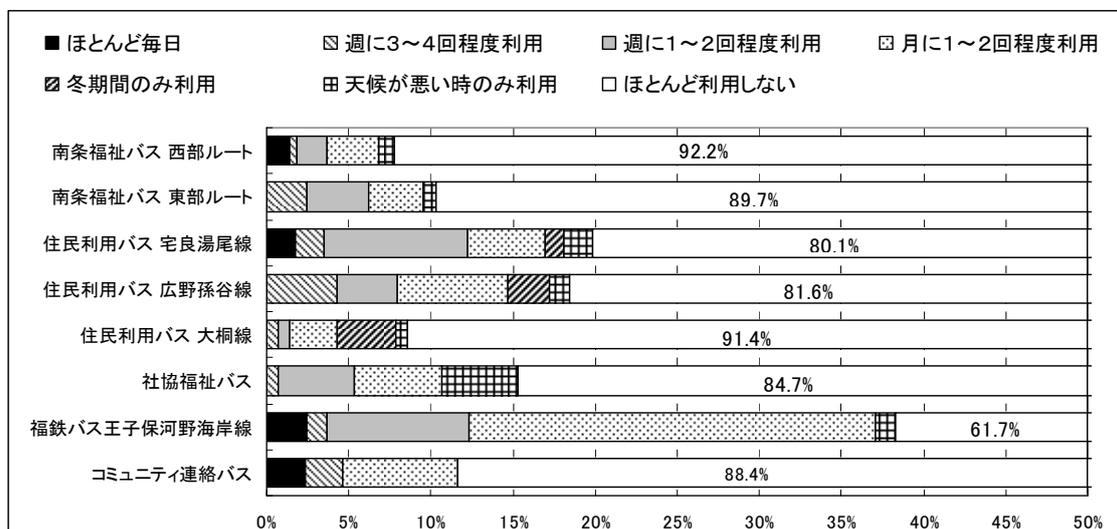
“バスを利用しない理由(3つ以内)”は、約8割の方が「自分で自動車を運転するから」となっています。

バスの利用頻度と利用目的

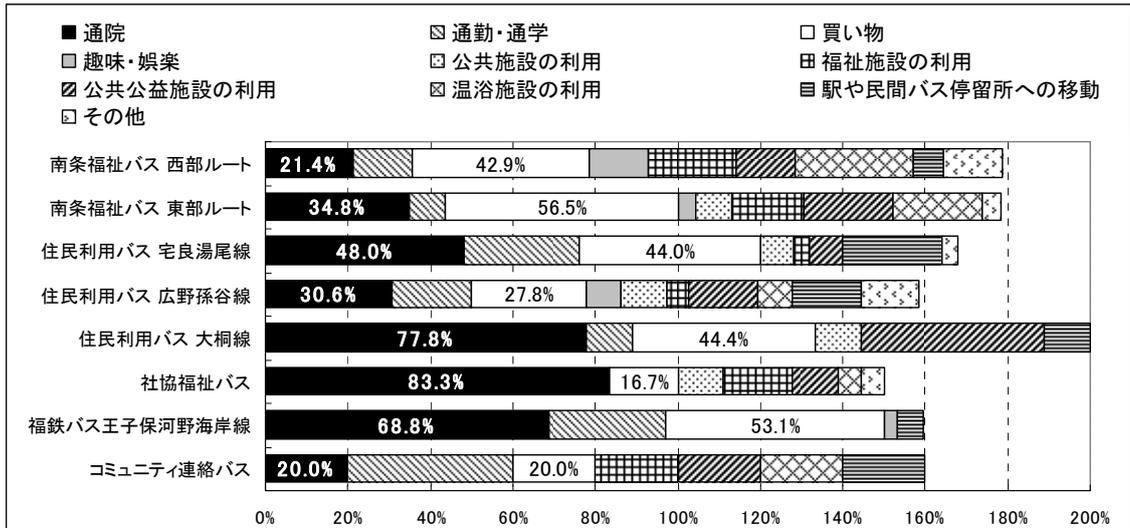
	多い利用頻度 (ほとんど利用しないを除く)	多い利用目的(2つ)
南条福祉バス 西部ルート	・月1～2回	1位：買物 2位：温浴施設
南条福祉バス 東部ルート	・週1～2回	1位：買物 2位：通院
住民利用バス 宅良湯尾線	・週1～2回	1位：通院 2位：買物
住民利用バス 広野孫谷線	・月1～2回	1位：通院 2位：買物
住民利用バス 大桐線	・冬期間のみ	1位：通院 2位：買物、公共公益施設
社協福祉バス	・月1～2回	1位：通院 2位：買物、福祉施設
福鉄バス王子保河野海岸線	・月1～2回	1位：通院 2位：買物
コミュニティ連絡バス(参考)	・月1～2回	1位：通勤・通学 2位：通院、買物など同率

コミュニティ連絡バスは、回答者が少ないので参考扱い

バスの利用頻度



## バスの利用目的

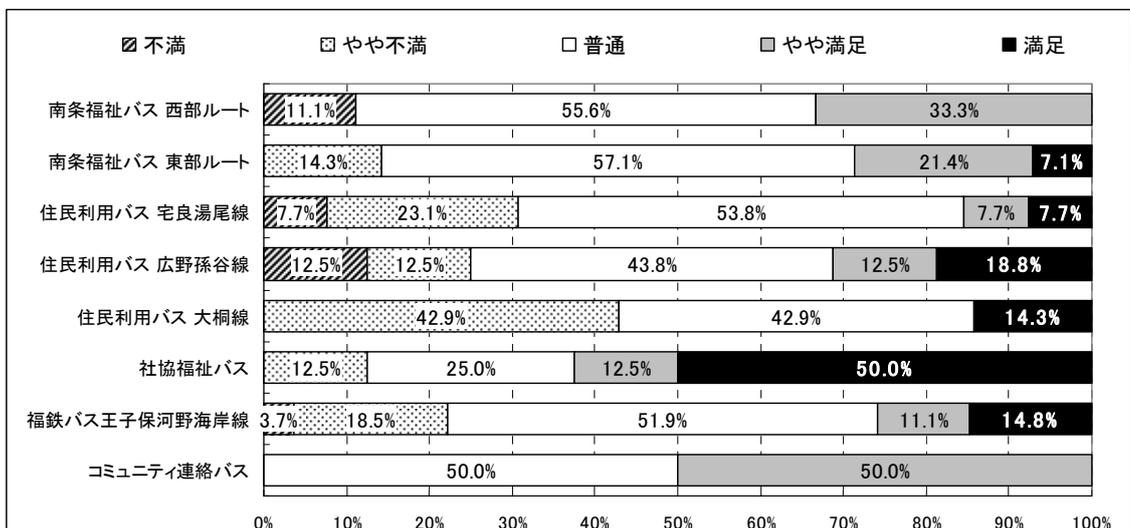


## バスの評価

	総合評価	悪い評価	良い評価
南条福祉バス 西部ルート	・普通が約6割 ・不満合計 < 満足合計	・運行間隔、バス停、バスとの乗継	・運転手の対応、運賃、乗り降りしやすさ
南条福祉バス 東部ルート	・普通が約6割 ・不満合計 < 満足合計	・バス停、バスとの乗継、鉄道との乗継	・運転手の対応、運賃、運行日
住民利用バス 宅良湯尾線	・普通が約5割 ・不満合計 > 満足合計	・なし	・運賃、運転手の対応
住民利用バス 広野孫谷線	・普通が約4割 ・不満合計 < 満足合計	・運行間隔、運行日	・運賃、バスの大きさ
住民利用バス 大桐線	・やや不満、普通が約4割 ・不満合計 > 満足合計	・運行間隔、運行時間帯、運行日、鉄道との乗継	・運賃
社協福祉バス	・満感が約5割 ・不満合計 < 満足合計	・運行間隔	・運転手の対応、運行日、運賃、バスの大きさ
福鉄バス王子保河野海岸線	・普通が約5割 ・不満合計 < 満足合計	・運行間隔	・運賃
コミュニティ連絡バス(参考)	・普通が約5割 ・不満合計 > 満足合計	・「運転手の対応、乗り降りしやすさ、バスの大きさ」以外の全て	・なし

悪い評価：「不満・やや不満」の合計が50%以上、良い評価：「満足・やや満足」の合計が50%以上  
コミュニティ連絡バスは、回答者が少ないので参考扱い

## バスの総合評価

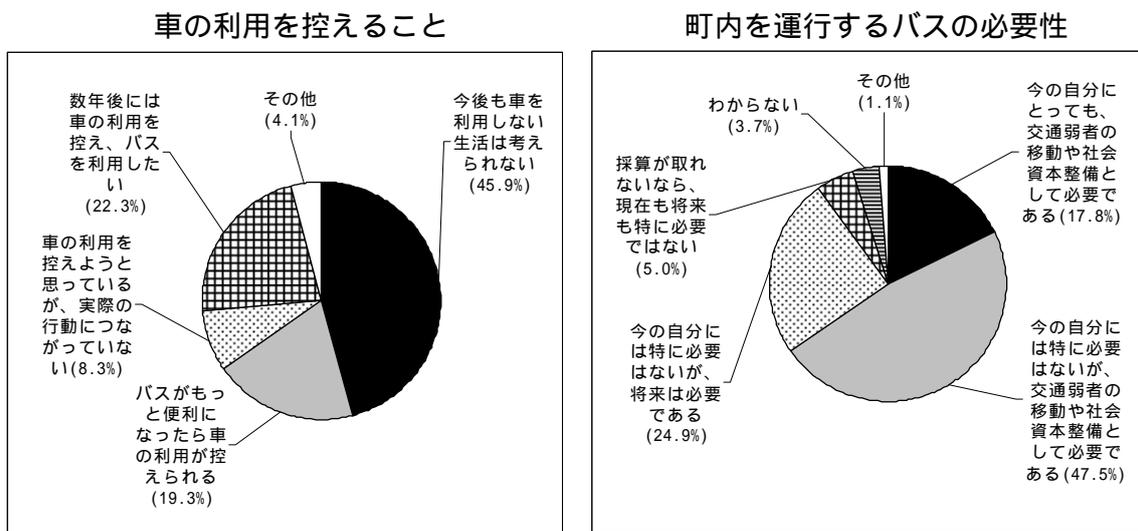


## ( 2 ) 今後のバスの利用や必要性 ( 問 4 ~ 問 6 )

“ 外出時にバスを利用し、できるだけ車の利用を控えること ” については、約半数の方が「 今後も車を利用しない生活は考えられない 」と考えていますが、約 2 割の方は「 数年後には車の利用を控え、バスを利用したい 」と考えています。

“ 今後バスを利用する際の利用目的 ( 3 つ以内 ) ” は、現在バスを利用されている方とほぼ同様に、約半数の方が「 通院 」 「 買物 」 での利用を考えており、次いで約 3 割の方が「 温浴施設 」 での利用を考えています。

“ 町内を運行するバスの必要性 ” は、約半数の方が「 今の自分には特に必要はないが、交通弱者の移動や社会資本整備として必要である 」と考えており、合計約 9 割の方が「 バスは必要である 」と考えています。



## ( 3 ) 町が運行している各地域のバスの再編・統一 ( 問 7 ~ 問 11 )

“ 社協バスの今後の運行 ” は、約半数の方が「 維持が難しいのであれば、町が運行しているバスに統合すればよい 」と考えており、次いで約 2 割の方が「 町が運行費用の一部を負担し、社協福祉バスを維持すべき 」と考えています ( 「 わからない 」 を除く ) 。

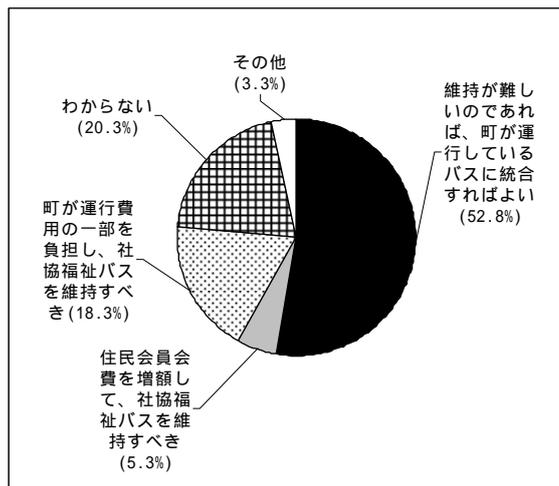
“ 各地域のバスの再編・統一 ” は、約 4 割の方が「 利用者は無料ではなく、一律の料金 ( 有料 ) とすべき ( 各地域の運行日数・便数等は現状維持 ) 」と考えており、次いで約 2 割の方が「 公平性の観点から運行内容 ( 料金・運行日数・便数 ) を統一したり、路線重複を解消すべき 」 「 持続可能な運行状況の場合に限り、各地域の事情を考慮して、無理に統一しなくてもよい ( 現状維持でよい ) 」と考えています。

“ バスの再編・統一で重視する点 ( 3 つ以内 ) ” は、約半数の方が「 町内の全ての集落の人が利用できる 」、次いで約 4 割の方が「 車両を小型化して集落内まで入ってくる 」 「 鉄道・民間路線バスとの乗り継ぎができる 」と考えています。

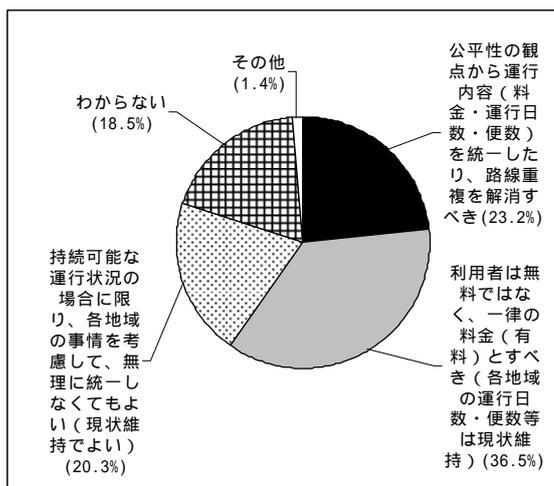
また、“ 1 回あたりの運賃の上限 ” は、約半数の方が「 100 円/回 」、次いで約 3 割の方が「 200 円/回 」と考えています。

“ 高齢者、障害者、小中学生の費用負担 ” は、約 4 割の方が「 軽減する 」、次いで約 3 割の方が「 全ての利用者と同等に負担する 」と考えています。

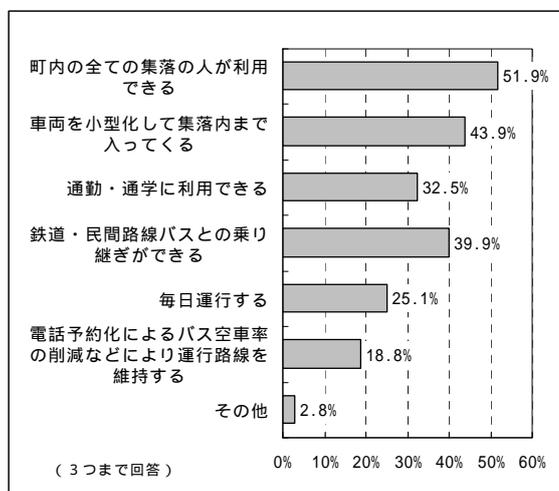
### 社協バスの今後の運行



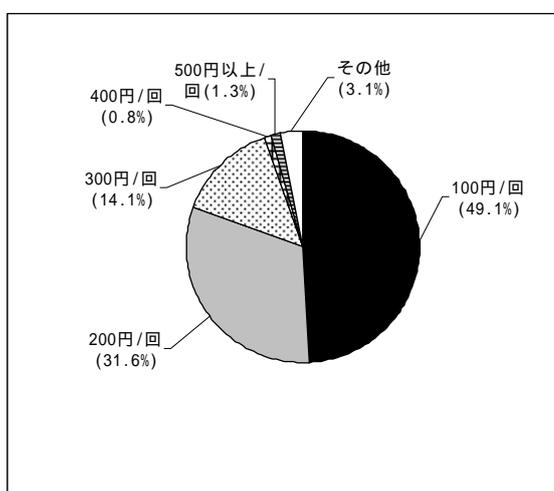
### 各地域のバスの再編・統一



### バスの再編・統一で重視する点



### 1回あたりの運賃の上限

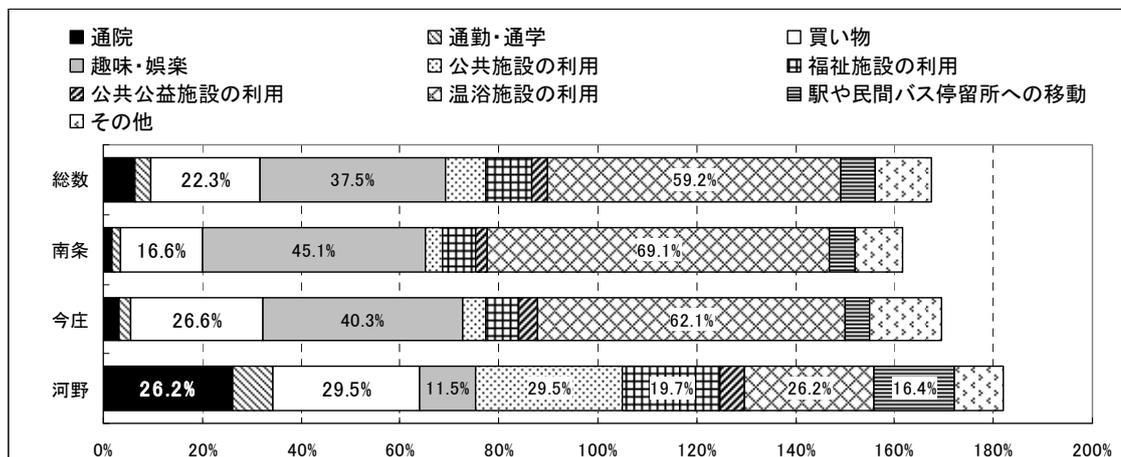


### (4) 河野地域と南条地域を繋ぐ新たなバス (問12~問13)

“利用頻度”は、各地域ともに約8割の方が「ほとんど利用しない」、約2割の方は回数は少ないながらも利用したいと考えています。

“利用目的(3つ以内)”は、南条・今庄地域では約6割の方が「温浴施設の利用」、河野地域では約3割の方が「公共施設、買物」で最も多くなっています。

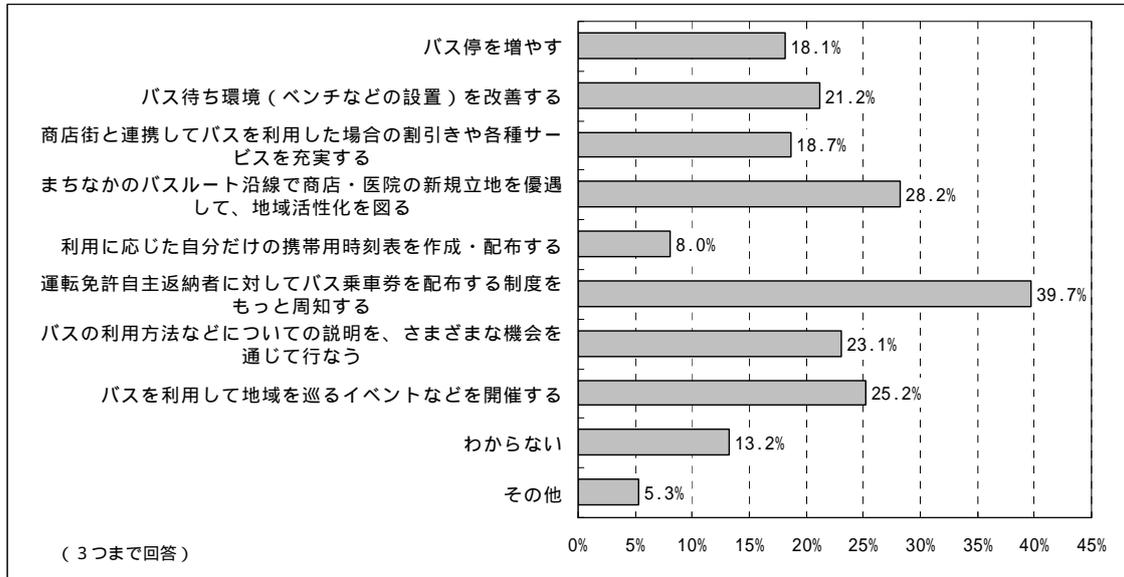
### 利用目的



( 5 ) バスの利用促進のための対策 ( 問 14 )

“ バスの利用促進のための対策 ” は、約 4 割の方が「 運転免許自主返納者に対してバス乗車券を配布する制度をもっと周知する」、次いで約 3 割の方が「 まちなかのバスルート沿線で商店・医院の新規立地を優遇して、地域活性化を図る」、「バスを利用して地域を巡るイベントなどを開催する」と考えています。

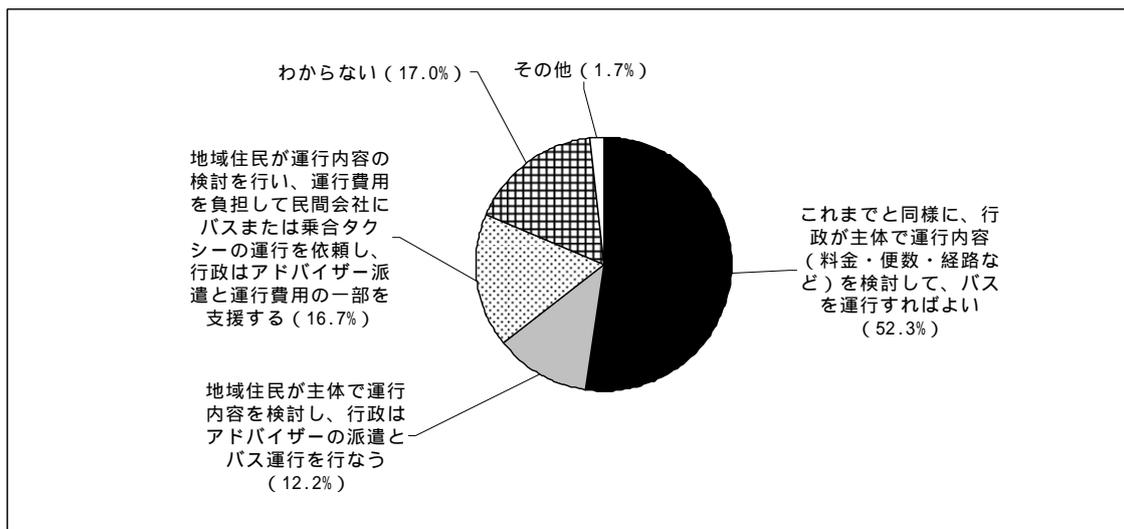
利用促進のための対策



( 6 ) 今後の各地域のバス運行のあり方 ( 問 15 )

“ 今後の各地域のバス運行のあり方 ” は、約半数の方が「これまでと同様に、行政が主体で運行内容（料金・便数・経路など）を検討して、バスを運行すればよい」と考えています。

今後の各地域のバス運行のあり方



( 7 ) 回答者の属性 ( 問 16 ~ 問 21 )

“ 住い ” は、約半数の方が「南条地域」、次いで約 4 割の方が「今庄地域」、約 1 割の方が「河野地域」です。

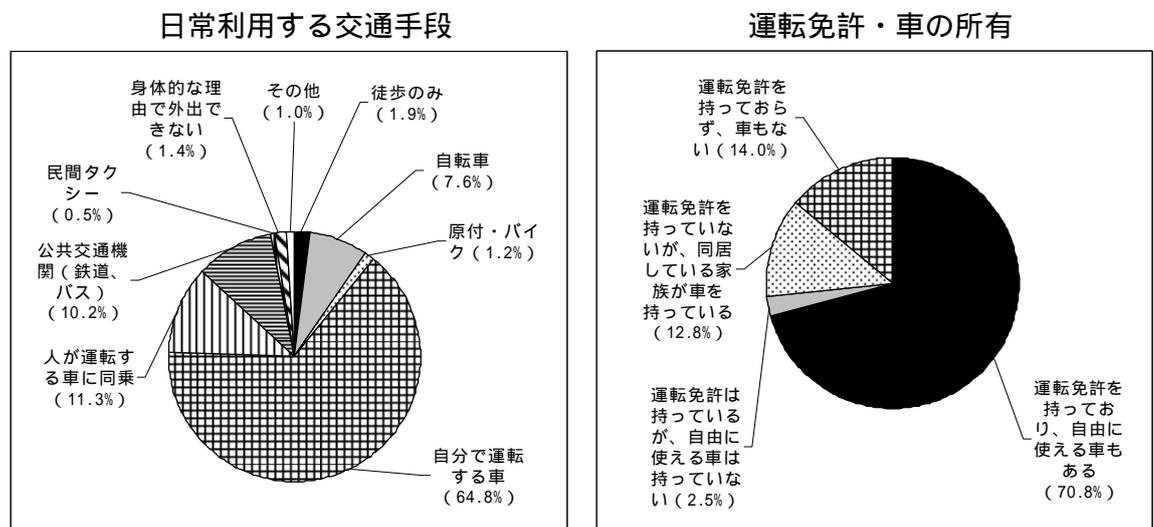
“ 性別 ” は、約 6 割の方が「女性」、約 4 割の方が「男性」です。

“ 年齢 ” は、「50 歳未満」、シニア世代の「50 歳 ~ 64 歳」、前期高齢者である「65 ~ 74 歳」、後期高齢者である「75 歳以上」の方が、それぞれ約 1 / 4 ずつです。

“ 職業 ” は、約 4 割の方が「無職」、次いで約 2 割の方が「会社員、団体職員」です。

“ 日常利用する交通手段 ” は、約 6 割の方が「自分で運転する車」、次いで約 1 割の方が「人が運転する車に同乗」「公共交通機関 ( 鉄道、バス ) 」です。

“ 運転免許・車の所有 ” は、約 7 割の方が「運転免許を持っており、自由に使える車もある」で最も多く、約 3 割の方が「運転免許を持っていない」です。



( 8 ) 日常生活の目的地 ( 問 22 )

“ 日常生活の目的地 ” は、“ 通院、 通勤・通学、 買物、 趣味・娯楽 ” では「越前市」、  
“ 公共施設、 福祉施設、 公益施設、 温浴施設、 鉄道 ” では「住んでいる地域」が多くなっています。

移動目的	1 位	2 位
通院	・越前市	・その他町外
通勤・通学	・越前市	・その他町外
買い物	・越前市	・南越前町役場周辺
趣味・娯楽	・越前市	・その他町外
公共施設 ( 役所、図書館等 ) の利用	・南越前町役場周辺	・今庄総合事務所周辺
福祉施設 ( 保健福祉センター等 ) の利用	・南越前町役場周辺	・今庄総合事務所周辺
公益施設 ( 銀行・郵便局 ) の利用	・南越前町役場周辺	・今庄総合事務所周辺
温浴施設の利用	・南越前町役場周辺	・その他町内
鉄道駅への移動	・南越前町役場周辺	・越前市

( 8 ) 公共交通に対する意見 ( 問 23 )

“ 公共交通に対する意見 ” は、回答者の約 2 割が「バスは必要」、次いで約 1 割が「運行方法の工夫」に関する意見を記載しています。

分類	意見数	割合
バスは必要	49	19.8%
バスは不要	8	3.2%
運行方法の工夫 ( 電話予約化等 )	34	13.7%
運行の日数	7	2.8%
運行の本数	13	5.2%
朝夕の運行	15	6.0%
買物への対応	7	2.8%
高齢者、通院への対応	8	3.2%
各地を繋ぐ路線	13	5.2%
鉄道との乗り継ぎ	6	2.4%
バスの小型化	16	6.5%
バスの乗降	1	0.4%
バス停の環境	1	0.4%
バス停の距離	12	4.8%
バス運行の周知	16	6.5%
運転手の対応	4	1.6%
運賃の有料化	13	5.2%
利用の少なさ	5	2.0%
その他	40	16.1%
回答数	268	-
回答者数	248	100.0%

**【主な意見】**

- ・南条地域：今は利用していないが高齢者には必要である ( 65 ~ 69 歳、女性 ) バスの情報をもっと知らせてほしい ( 75 ~ 79 歳、男性 ) 利用者は費用を負担すべき ( 75 ~ 79 歳、女性 )
- ・今庄地域：全てデマンド式にして無駄をなくすべき ( 50 歳代、女性 ) バスは小型化するとよい ( 75 ~ 79 歳、女性 ) 南条地域への買物バスを運行してほしい ( 80 ~ 84 歳、女性 ) 高齢者は目的地の近くで乗降できるとよい ( 40 歳代、女性 )
- ・河野地域：バスが無くなると困る ( 80 ~ 84 歳、男性 ) もっとバスを増やしてほしい ( 高校生、男性 )